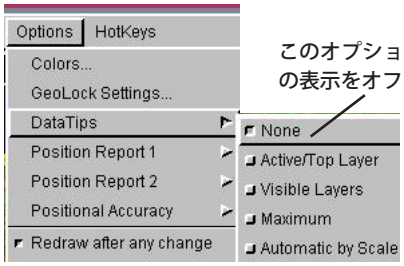
データティップの表示モード

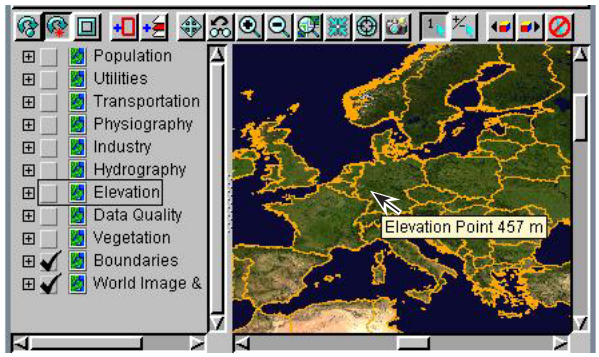
ご存知でしたか？... データティップの対象となるレイヤを選択できます。

データティップの表示モードを設定することで...

- データティップの表示対象を、全レイヤや表示中のレイヤ、アクティブレイヤ等に切り換えられます。
- 現在の表示で隠されているレイヤのデータにもアクセスできます。
- スケールコントロールレイヤの場合、レイヤに設定された表示スケールよりも広い範囲のスケールでデータティップを表示できます。
- データティップの表示をしないようにも設定できます。

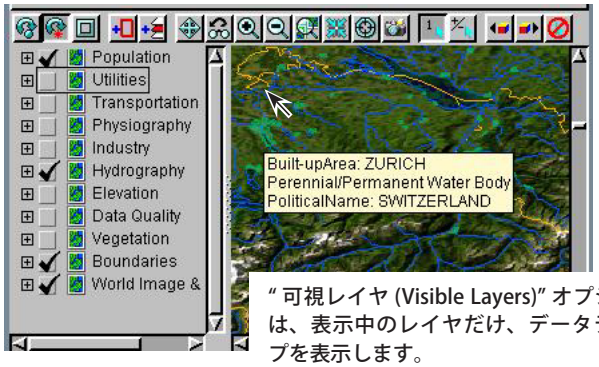


このオプションでデータティップの表示をオフにします。

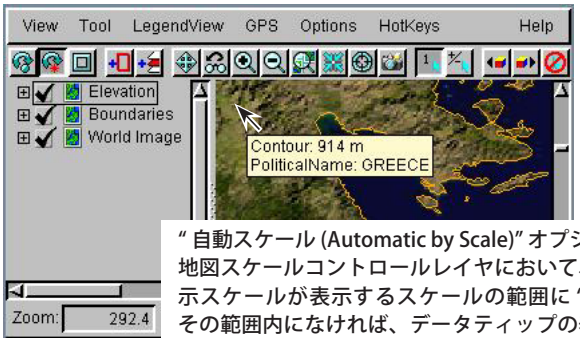


“単独選択(アクティブ)/一番上のレイヤ(Active/Top Layer)”オプションでは、アクティブレイヤのデータティップを表示します(アクティブレイヤが非表示であっても有効)。

“最大(Maximum)”オプションでは、全てのレイヤのデータティップを表示できます。データティップは最大で20行までですが、20行目からマルチラインデータティップが始まる場合は、それより少し多くなります。



“可視レイヤ(Visible Layers)”オプションは、表示中のレイヤだけ、データティップを表示します。



“自動スケール(Automatic by Scale)”オプションでは、地図スケールコントロールレイヤにおいて、現在の表示スケールが表示するスケールの範囲に“近い”か、その範囲内になければ、データティップの表示をオフにします。具体的に“近い”範囲とは、最小スケールの100倍を超えて拡大、または最大スケールの10倍を超えて縮小した場合でもデータティップは表示されます。例えば、上図の等高線を示す標高レイヤでは、1:100,000から1:2,500,000の間で表示する設定ですが、スケールが100倍の1:1000から10倍の1:25,000,000の間でデータティップが表示されます。

データティップの表示モードを変更する方法

- 〈レイヤコントロール〉ウィンドウで、レイヤのデータティップの内容を設定します。
- 表示ウィンドウで[オプション>データティップ(Options/DataTips)]を選択します。
- データティップの表示モードを1つ選択します。

さらに知りたいことがあれば...

以下のカラープレートをご覧ください

データティップへのスタイリング
(Add Styling to DataTips)

MicroImages
microimages.com